

厚生福祉常任委員会代表質問

質問

1、自宅介護に疲れて、要介護者を何らかの施設で面倒を見てもらいたいと願っている人は大勢いるが、施設を誘致するという計画はないのか。

町長答弁

施設を作るとなると大変なので、家族介護をしている方々の要望意見を聞きながら、どうしたら良いのか考えていきたい。

質問

2、湯沢町の後期高齢者の医療費が県下で一番安いというが、その理由はどこにあると思うか。

町長答弁

湯沢町では町民の半数以上が湯沢病院の医師が主治医であり、病院の不必要な検査はしない、薬の安易な処方はない、ジェネリック薬品を使う、などの適切な対応で医療費が低くなっている。

質問

3、子宮頸癌ワクチン接種の高校生の申し込みは67・4%ともう一つで

町長答弁

ある。高校生の受診率を上げるための対策は。高校生は中学生のよう同時にできないので困難だが、保護者に連絡をとりながらやっていきたい。

質問

4、40歳から60歳までのガンの早期発見のための無料クーポン券の発行も歓迎すべきことである。オレは大丈夫だと思っている人たちに、検診を受けてみようかと思わせる手だてを考えているのか。

町長答弁

40歳から60歳までの働き盛りの年代に5歳刻みに無料クーポン券と検診手帳を交付する。湯沢町では大腸がんより胃がんの罹患者が死亡者が多いので、これに併せて胃がん検診も町の単独事業で、無料クーポン券を発行する。

質問

5、さらなる職員数削減で

町長答弁

現在の152人から130人まで減らす計画だという。そこまで減らして事務執行の上で本当に支障はないのか。

質問

この定数は、町の税収が低下する中で、今後とも合併をせずやっていく事を前提として定めた定数である。学校・保育園の合併は織り込み済みであり、民間活力を活かした組織づくりを行う事が前提となっている。

私は、定年を待たずしてこんな大勢の職員がやめていく職場には問題があるのではないかと思っている。30代以下の人たちにメンタルヘルスの点で問題を抱えて休職する人が絶えない事も問題である。

退職する人の数より新たな採用者が少ないことで、若い職員層を薄くしている。その年齢構成のゆがみが将来困難をもたらすという心配はないのか。

公務員・自治体労働者と

町長答弁

というのは住民全体に奉仕する人として、住民の福祉と暮らしを直接支えている人たちである。本来なら大きな誇りとやりがい・喜びを感じる仕事であるはずであるが、定数削減による過重な労働密度がその喜び・やりがいを失わせているという危惧を、町長は持っているのか。

年齢構成のひずみがどうなっているのかを確認した中で対応していくつもりだ。



質問者
佐藤 守正

施政方針に対する

代

表

質

問